名古屋西南ロータリークラブ
Weekly Report

安江英雄会長年度テーマ
継続は力、 協力は強力

例会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000
例会日時 木曜日 12:30
クラブ会報広報委員長 二俣景一

2006-07 年度 R.I.会長
ウィリアム B. ボイド

承 認 1995.3.28
会 長 安江英雄
幹 事 後藤 敞

事務局 名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
Email seinan1@fancy.ocn.ne.jp
HP http://rc.nagoya-seinan.org/

臨 時 総 会

第564回例会 No. 24 平成19年1月18日(木) 晴

■ ﾛｰﾀﾘｰｿﾝｸﾞ	「それでこそロータリー」
■ 出席報告	会員47名中29名出席
■ 出席率	65. 91% 出席計算人数44名
■ 修正出席率	1月4日 休会のため報告なし

会長挨拶 安江英雄

「さつまいも」

薩摩芋の原産地は南メキシコか中央アメリカといわれ、熱帯や温帯に多く産する。日本では鹿児島県をはじめとして福島県以南で広く栽培されています。

私達の育った町でも標高が 750m 位ありますが、戦中・戦後の食糧難時代に代用食として活躍しました。

さつまいもの伝来にまつわる話しはいろいろありますが、鹿児島県山川町には鹿児島県にさつま芋をもたらした甘薯翁こと前田利右衛門を祀る神社があります。

前田利右衛門は小川町の人で舟子として琉球にわたり、宝永2年(1705) にその地で食べられていた芋を持ち帰り、鹿児島特有の火山灰地に植えたところ栽培に成功し、以後急速に津島藩に広まったという。享保 17 年(1732)の飢饉にはさつま芋のおかげで一人の死者もなく切り抜けたという。

江戸時代初期、琉球から渡来して鹿児島で広まったさつま芋は享保 20 年(1735)将軍吉宗の命を受けた青木昆陽が江戸でもさつま芋を栽培し、関東にもさつま芋が出回るようになった。

当初はもっぱらふかし芋として食べられていましたが、寛政5年(1793) の冬には江戸にも焼き芋屋が登場しました。武州の川越にも焼き芋屋が出来、江戸から13里半の距離にあったため「9里4里うまい 13 里半」として評判をとったということです。

天明の飢鯉の時には全国でその真価を発揮し、救済食として「そば」と共に認識されました。昭和の戦中・戦後の食糧難の時代にも代用として活躍しました。

今ではほとんど芋焼酎として消費されているようです。

ニコBOX

●本日は「臨時総会」です。安江会長、後藤幹事 よろしくお願い致します。 日下、水野、長谷川千廣、林、河原、西川、吉田、長谷川龍伸、和田(敬称略)

●国際奉仕委員会 カンボジア事業の報告をしていただきます。水野裕善委員長、宜しくお願い申し上げます。安江会長、鈴原、渡邉、磯部、岩田、加藤、藤田、松尾、中川(敬称略)

後藤幹事 本日の臨時総会、宜しくお願い致します。

森さん お誕生日のケーキ、ありがとうございました。

橋部さん 代替わりとなりました。
ソフトボールガンバリマス。

本日合計 43, 000円

臨時総会議事録

会長 安江 英雄
幹事 後藤 敞

議題

1. 2007-08 年 理事役員(案) 承認

会長	(理事)	渡邉 徹雄
会長ｴﾚｸﾄ	(理事)	吉田 光一
副会長	(理事)	大塚 嘉彦
直前会長	(理事)	安江 英雄
幹事	(理事)	二俣 景一
副幹事	(役員)	西川 博
職業奉仕	(理事)	藤野 正敏
社会奉仕	(理事)	日下 宏次
国際奉仕	(理事)	鈴原 孝
新世代/ﾛｰﾀｱｸﾄ	(理事)	水野 裕善
親睦活動	(理事)	植木 広次
正 S.A.A.	(役員)	岡田 守功
会計	(役員)	川原 弘久

議題

2. 名古屋西南 RC 内規の一部変更について(案)
理事役員会に差し戻し

委員会報告

●国際奉仕　　委員長　水野裕善

「カンボジア　診療所報告」

診療の様子

救急車　（交通事情のため二輪車が最適との事です。しかし盗まれる危険が高く、車庫の設置が必要である。）

Rotary International　WEB　Site より抜粋
Rotary.org → 日本語 → ニュースルーム → ニュース

ノーベル平和賞受賞者、ロータリーに小口融資プロジェクトのアイデアをもたらす

多くのロータリー・プロジェクトを生み出すきっかけとなった小口融資（マイクロ・クレジット）のアイデアを先駆けたバングラデシュの経済学者、ムハマド・ユヌス博士が2006年ノーベル平和賞を受賞しました。

1999年、シンガポールで開催されたRI国際大会で、ユヌス博士は、グラミーン銀行からの小口融資を通じて貧困層の人々が起業するのを助けるという活動を称えられ、ロータリーでも最も栄誉ある賞、**ロータリー国際理解賞***を受賞しました。博士は、賞金の米貨100,000ドルをグラミーン銀行にそっくりそのまま寄付しました。

「ユヌス博士による極めてシンプルな小口融資のアイデアは、人道的支援活動に根本的な変化をもたらしました」と、1999年に、ジェームス・レイシーRI元会長が述べています。「本賞は、世界の人々を貧困から救い、生活の質を向上させたグラミーン銀行の素晴らしい成果を表彰するものです。ロータリーの会員は同じ人道的活動家として、彼が手がけた経済的な自立への支援活動を心より称賛します」

ロータリアンは、ロータリー財団の **人道的補助金** や **世界社会奉仕** といったロータリーのプログラムを通じて、独自の小口融資プロジェクトを開始しました。1984年以来、ロータリーが支援する村営銀行が、12カ国で開設されています。現在では、ロータリー財団を通じ、世界で60件以上の小口融資プロジェクトに関与しています。

1976年、近くのチッタゴン大学の教授を務めていたユヌス博士が、バングラデシュのジョブラという村で竹製の椅子を作っている女性と話をしていたときのことです。博士は、突然「ひらめき」なるものを感じたと言います。その女性が、出来上がった椅子を二束三文で買い取る業者から、米貨でおよそ25セントの掛けで材料の竹を仕入れていることを知った博士は、すぐさま彼女にその25セントを貸すことを思いついたのです。

その後の調べの結果、博士は、他にも似たような貸し付けにあえいでいる村人たちに遭遇し、その全額が米貨27ドルに及んでいることを知りました。

「私が驚いたのは言うまでもありません。金貸しや業者から虐げられて身動きの取れない状態にあった彼らを自由にしてやりたいという一心で、その場で27ドルを渡したのです」と、ユヌス博士は、1999年国際大会でロータリアンに語りました。

そのお金で彼らは、椅子やつぼを作るのに必要な一日分の材料を購入することができました。独立して商売を始めた起業家たちは、大いに奮闘し、初日の終わりには手作りの品を売って利益を上げ、短期間のうちに金を返すことができました。

「こんな小額のお金でこれほど多くの人々を喜ばせることができるのなら、もっと大々的にこれを行うべきだと考え始めました」と、ユヌス博士は述べます。

村の人々が既存の貸出機関からお金を借りることができないと知り、博士はグラミーン銀行を開設しました。今日、グラミーン銀行の存在によって、恵まれない人々は担保なしでささやかな額のローンを利用することができます。特に女性を中心に家族が貧困から抜け出せるようになり、このローンは大変な成功を収めました。また、現在では世界中の大手銀行の多くが、返済率98パーセントという見事なグラミーン銀行をうらやむまでに至りました。現在、小口融資の制度は数十カ国において導入されています。

** ロータリー国際理解賞は、国際ロータリーによって廃止されました。*

本文記事は、一部を「ザ・ロータリアン」誌1999年10月号から抜粋しています。

☆☆次回例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2月1日（木）　第566例会

「第6回クラブフォーラム」

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆